

建設コンサルタント協会九州支部

まちづくりに関する提案

# 『みんなのおもいを形にできるシステムづくり、拠点づくり』

平成 15 年 2 月 28 日

## ● はじめに ●

昨今、まちづくりにおける住民参加の必要性が広く議論され、行政の一方的なまちづくりから、行政、住民、企業、専門家、NPO など様々な立場の人々による協働によるまちづくりが徐々に浸透してきています。

まちづくりを行う住民グループも育ちつつありますが、地域に根ざしたまちづくり活動において、様々な問題が生じてきているのも現状です。その中で、「若い世代の参加者が少ないため、若い世代を取りこむにはどうしたいのか」という1つの課題が挙げられています。

一方、まちの将来像は、地域性、個人の価値観により、全く異なります。その地域に住む多くの人々の意見を出し合い、行政を巻き込みながらめざすべき将来像の実現を可能とするシステムづくりが必要です。

そこで、若者を含む不特定多数の住民が、自由に自分たちのまちについて考え、話し合うシステムづくり、場づくりについて提案します。

## ● まちづくり活動の問題点と課題の整理 ●

### (まちづくり活動に関する問題点)

- ① まちづくり活動に10代~30代の年代層の参加が少ない。(10代~30代の世代は、学校、仕事、子育てなどが忙しく、参加する時間を取りにくい。) ⇒好きな時間に自由に参加できるシステムづくり、場所づくり
- ② 地域コミュニティが稀薄な地域においては、一緒に活動に参加する仲間を作りにくい。⇒インターネットを活用した仲間づくり
- ③ インターネット等によりまちづくりに関する情報についても氾濫しているが、活動やホムズジの目的が明確になっていない場合、欲しい情報の検索が困難である。⇒目的を明確にした情報づくり
- ④ まちづくり活動資金の捻出が困難である。⇒コミュニティビジネスなど、地域主体のビジネスの体制づくり

- ⑤ まちづくり活動の方法や先進地の現状などを知りたいが、気軽に相談できる人がいない。⇒まちづくりプロデューサーの配置

### (まちづくり活動の場(拠点)に関する問題点)

- ⑥ 24時間ミーティングし、資料を閲覧できる施設がない。⇒24時間形式のまちづくり活動専用施設づくり
- ⑦ まちづくり活動の拠点となる施設が少ない。公民館等の公共施設を利用したいが、他の活動等で、自由に使うことが難しく、専用使用できない。⇒まちづくりグループが入居できる施設づくり



## ● 提 案 ●

### 1. インターネットを活用した話合いの場づくり

- ◆ 時間にゆとりのない人、まちづくり活動に参加したいと思っているがきっかけがなくて参加できない人などが、好きな時間に自由にまちの問題点や課題、自由な意見などが発言できる場をインターネット上で作ります。

### ポイント

- ・ 住民からの発意であることが重要であるため、住民によりホームページ(以下HPとする。)の作成、管理を行う。
- ・ HPの趣旨、テーマを明確にする。
- ・ HPの広告費をまちづくりの活動資金とする。
- ・ 見る人の興味を引くため、毎日更新する。
- ・ GISを活用し、1週間に1つ、まちの課題を考えるテーマについて書きこみをしてもらう。(例:今週のテーマ『外灯が不足しているところはどこ?』)
- ・ 今まで、まちづくりに興味が無かった人でも、興味をもってもらうため

に、お稽古事情報、イベント情報、口コミ地域情報（ランチが美味しいお店など）、映画情報など、とっつきやすい身近な地域情報を掲載する。



GISによるまちづくり点検マップの活用事例。  
(出典：福岡市まちづくり)

## 2. まちづくり活動の拠点（場所）づくり

◆ インターネット上での活動は、課題の共通認識や、若者を含む不特定多数の意見を聞く場として機能しています。また、まちづくり活動グループ結成のきっかけづくりにもなります。次のステップは、話し合いの場を設けて議論を深めることです。そのためには、これらの活動を行うための拠点（場所）の整備が必要です。

### ポイント

- ・ 新たな施設は建設しない。空き店舗や空きビルなどの既存民間施設を行政が借り、活用する。また、統合等により廃校となった学校などの既存公共施設を活用する。
- ・ 可動式テーブル、可動式イス、可動式液晶ディスプレイを設置し、グループの形態により多様に活用できる工夫を行う。可動式液晶ディスプレイは、パソコンの画面をグループで共有するために必要である。また、

液晶ディスプレイにより、行政担当者テレビ会議が行えるようにするための行政側の環境づくりを行う。

- ・ 他都市の事例や手法などが学べるように、関係資料が閲覧できる書庫、パソコン、地域情報コーナー、掲示板、伝言板を設置し、昼間働く会社員なども利用できるように、24時間開放する。
- ・ 若者の「溜まり場」となるよう、若者向きの雰囲気作りを行う。（柔らかな雰囲気のインテリア）

さらに・・・

- ・ まちづくり活動を行う団体が拠点として入居する施設（まちづくり活動インキュベーション<sup>※</sup>施設）を整備する。
- ・ 入居期間はまちづくり活動が軌道にのるまで（期間限定で3年程度）とし、施設には、まちづくり団体の活動を支援するプロデューサーを配置する。
- ・ 複数の団体が1つの施設に入居することによって、グループ相互の交流が生まれ、新たな活動が発生することを期待する。

### ● 終わりに ●

インターネットなどが普及した情報化社会において、情報は氾濫し、まちづくりに関するHPも多く見られますが、新たな仲間づくりやHP外での活動につながり難い状況です。本提案のHPでは、まずは、若者を多くの人が見たくなる紙面づくりが最大のポイントであり、住民側からの自由な発想や紙面づくりにより、多くの購読者を求めます。口コミが最大の広告であると言いますが、若い女性が日々の会話の中で話題にしたくなるような情報をのせることも必要です。また、既存施設を活用して、立ち寄りたくなる雰囲気の施設づくりも次のステップにつながる大きなポイントとなります。他方、これらの住民発意の活動をサポートする行政システムの確立が必要であると考えます。

インキュベーション<sup>※</sup>

ベンチャー企業などの新しい企業を育成するため、場所・OA機器、経営相談サービスなどを提供して、ひとり立ちできるようにすること。

まちづくり活動拠点のイメージパース

